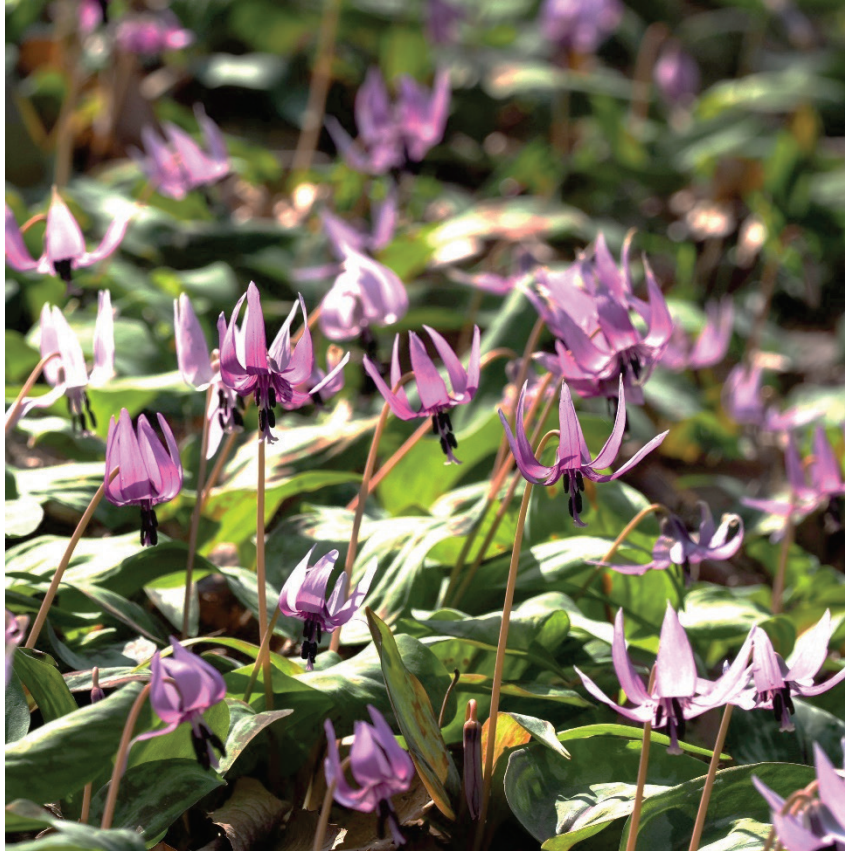


東京いきもの台帳・植物分野 ニュースレター No.4

# TOKYOENSE

May. 29, 2026



Red Data Plants in Tokyo : カタクリ 2026.3.29 瑞穂町

太平洋側のカタクリは地下水位が高い北向き斜面に自生することが多いのですが、ここも例外ではありません。東京でも最大規模といえる見事な群落ですが、近年は草丈低下や小花径化が顕著で、高温化や少雨傾向の影響が出ているようです。

東京都植物目録作成に向けた今後の道のり .....	2
植物目録こぼれ話 情報求む!「オオニシキソウ??」 .....	3
コラム .....	5
東京 Topics of Flora ④ キンキエンゴサク <i>Corydalis papilligera</i> Ohwi .....	5
文献から探る東京の植物 ④ 『東京西郊野外植物の観察』 .....	6
活動報告 .....	7
◇ 教育普及活動報告 (2025年10月末~2026年3月) .....	7
◇ 主な専門員植物相調査記録 .....	8
◇ その他の活動 .....	8
■ 編集後記 .....	8

# 東京都植物目録作成に向けた今後の道のり

前号のニュースレターでお知らせしたように、2025年12月から「東京都植物目録(暫定版)」の公開が始まりました。ただし、「暫定版」という名前のおり、これはまだ途中段階のもので、これから取り組むべき課題は数多く残されています。そこで今回は、今後の作業の進め方について、できるだけわかりやすくご説明します。

## 1. 標本情報の整理とデータベース化

現在公開されている目録は、東京都立大学牧野標本館などいくつかの標本庫に納められている植物標本のデータをもとに作られています。他にも未調査の大学や博物館などに多数の標本が収蔵されていますので、これらもできる限り確認したいと考えています。

## 2. 文献情報の整理とデータベース化

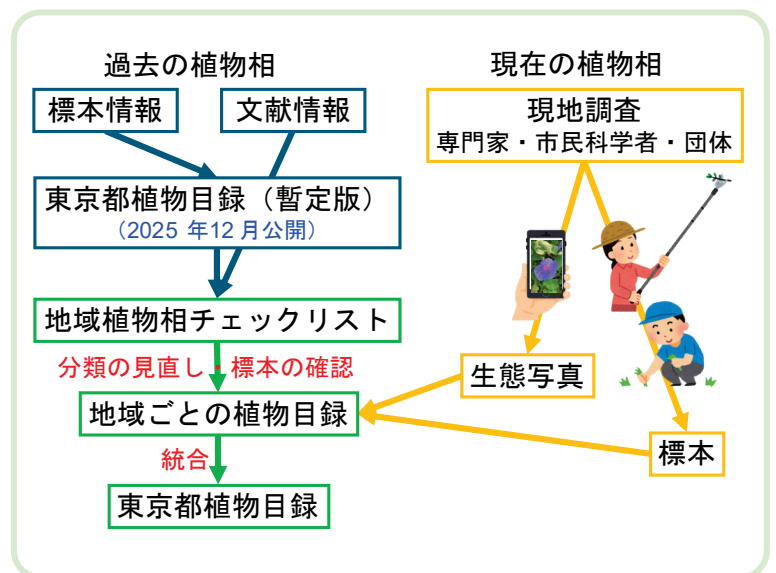
これまで東京都の各地域では、さまざまな植物リストが作られてきました。植物目録作成事務局ではこれらの文献を集めて、参照しやすい形にするため、内容をデータベース化する作業を進めています。

## 3. 地域植物相チェックリストの作成と見直し

標本の情報と文献の情報をまとめて、東京都の各地域(市区町村や島など)で記録されているすべての植物の一覧(チェックリスト)を作成します。このリストでは、それぞれの植物について、「どの文献に載っているか」、「どこに標本があるか」が分かるようにします。その上で、次のような点を確認していきます。

(1) 植物名と分類の見直し: 同じ植物に複数の名前があったり、分類の考え方が異なる場合があります。そのようなときは、文献や標本をもとに整理し、できるだけはっきりさせます。判断が難しい場合は、今後の研究を待つことになります。

(2) 標本の確認: 標本の中には同定者による考え方の違いや誤り、入力ミスなどが含まれている可能性があります。そのため、実際の標本を改めて確認していく必要がありますが、すべての標本を確認するのは難しいため、特に重要なもの(標本が少ないものなど)を優先して調べます。もし同定に誤りが見つければ修正します。また、文献には記録があるのに標本が見つからない場合は、他の標本館を探したり、現地調査で探して採集します。最終的に確かな証拠が得られない場合は、その植物はリストから除かれる可能性があります。



東京都植物目録作成の道のり

## 4. 現地調査による現状の把握

都内各地の植物の現状を把握するため、実際に現地に行って調査を行います。現地調査では、植物を採集して標本を作るとともに、BiomeSurveyによる生態写真の記録も集めます。できるだけ地域ごとに、少なくとも1点は確かな標本を残すことを目標としています。

## 5. 地域ごとの植物目録の作成

上記の作業を繰り返しながら、チェックリストの精度を高めていきます。その後、地域ごとに標本・文献・生態写真の情報をまとめた「地域ごとの植物目録」を作成します。

## 6. 東京都植物目録のとりまとめと公開

最終的にこれらの地域ごとの植物目録を統合し、2028年度までに「東京都植物目録」としてまとめ、公開することを目標としています。

このように作業は多岐にわたりますが、時間や人員にはかぎりがあります。また、生きものの目録に「完成」はありません。分類の考え方は研究の進展によって変わりますし、自然環境も常に変化しています。そのため、目録は継続的に更新していく必要があります。私達は、その時点における、できる限り正確で充実した情報を提供するための仕組みを作りながら、作業を進めていきます。もし上記の作業(特に3~5)の中でご協力いただけそうなことがありましたら、ぜひ植物目録作成事務局までご連絡ください。(加藤 英寿)

## 植物目録こぼれ話 情報求む! 「オオニシキソウ??」

オオニシキソウというトウダイグサ科の植物をご存知だろうか。この植物の学名は *Euphorbia nutans* Lag.だが、以前は *Euphorbia maculata* L.という学名が使われていた。ややこしいことに、この *E. maculata* L.という学名は、今ではコニシキソウの学名となっている。

このような「昔は同じ名前が出てました～」みたいな例が植物の世界では多々あって、植物好きを混乱に陥れている。

小笠原のある島のチェックリストを作成していたとき、学名だけがリスト化されている文献があった。そのなかに *E. maculata* も載っていたのだが、このままではコニシキソウだかオオニシキソウだかわからない。

さいわいその文献は「XXX氏から提供された標本を同定した」という報告であり、その標本が牧野標本館(以下牧野)に所蔵されていたので、さっそく確認することにした。

一見したところ、コニシキソウではないようだ。

図鑑などでは、オオニシキソウが小笠原に分布しているという記載はまだない。小笠原に最近入ってきたのかもしれない。

「オオニシキソウかな、新産地報告かな」とわくわくしながら顕微鏡をのぞいたが、見えたのは『つるつるピカピカ…。』そう、茎に毛がなく、顕微鏡の照明で茎が光って見えているのである。

**オオニシキソウもコニシキソウも茎に毛があるはず**なので、これは先達の誤同定ということになる。

アア、あぶなかった。このようなことがあるから、文献情報や標本庫のデータベースを鵜呑みにしてはいけないのである。いくら大きな標本庫でも、いや大きくなればなるほど、同定の手(眼)は行き届かなくなるのだ。



オオニシキソウのさく葉標本。  
茎は有毛。MAK477448

閑話休題。

とにかくその標本が何者なのか、再同定しなければならない。

オオニシキソウによく似ている無毛のもので、小笠原(日本)にありそうなものには、セイタカオオニシキソウとオトギリバニシキソウがあるらしい。

両者ともアメリカ大陸の亜熱帯および熱帯地域原産で、セイタカオオニシキソウは琉球、小笠原、台湾、海南島などで記録があるようだ。

一方オトギリバニシキソウは中国南部、台湾、海南島、韓国などに移入しているとされている。日本では琉球と新潟で標本が採られているようであり、小笠原では iNaturalist による観察データがあった。



MAK477934  
無毛タイプ。  
植物体全体(上)、  
花序・托葉(右)

セイタカオオニシキソウについては図鑑に載っていたが、オトギリバニシキソウについては詳しい説明が見あたらない。オトギリバニシキソウとはどんなものなのか？この2種はどのように見分ければよいのか？

インターネットに感謝しながら、それぞれのタイプ標本の画像を手に入れてその植物の雰囲気をつかむ。さらに世界中の文献の海を泳ぎ回り、なんとか自分なりの検索表を作成してみた。

その結果、この2種はものすごく見分けにくいものだ、ということがわかったのだ。なにしろ「この2種は誤同定がとても多い」と書いている論文がいくつかあるほどなのだ。試しに牧野にある標本を再同定してみたが、やはり同定結果に自信をもてない。もうちょっと鑑定眼を鍛えねば。各地の標本庫を訪問しできるだけ多くの標本を見たほうがよさそうだ。目録作成は前途遼遠である。

標本や生物情報のデータベースを確認していた時に気がついたことがある。

小笠原ではわずかながら両種の記録がある(もちろん再確認は必要)。本土部はほぼオオニシキソウである。しかし伊豆諸島ではいずれの種も記録が見つからない。

ということは…？

ほら、そこに面白そうなネタが浮かんでくるではないか。

伊豆諸島にはオオニシキソウやそれに似た無毛の種はいないのか？記録がないだけなのか？

ついでに本土部における無毛の種(セイタカオオニシキソウもしくはオトギリバニシキソウ)の分布も調べたい。

この2タイプの分布状況を明らかにしよう！ 標本を採るだけ。あとはルーペがあればいい。

ここまで読んでくださった皆さん、ぜひご協力を。

オオニシキソウに似たものを見かけたら、茎に毛があるかどうか、教えてください。

事務局まで情報お待ちしております！

(中村 朗子)

## コラム

東京 Topics of Flora ④ キンキエンゴサク *Corydalis papilligera* Ohwi

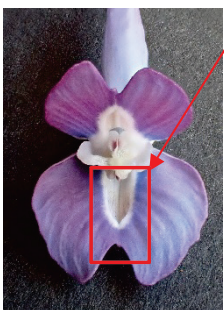
東京都内に産するケシ科キケマン属のヤマエンゴサク *Corydalis lineariloba* Siebold et Zucc.は、山地から丘陵地にかけての沢筋等に群生する春植物です。一方、埼玉県・新潟県以西にはキンキエンゴサクという別種が生育していることが知られていますが、ヤマエンゴサクと酷似するため、その分布範囲が十分明らかとなっていない現状があります。しかし、近年この植物の特徴がより詳しく紹介されるようになってきたため(福原 2016. 本多 2022.)、東京都内にもキンキエンゴサクが自生しているのかどうかを確かめることが可能となってきました。

キンキエンゴサクの花はヤマエンゴサクと一見そっくりなため、変異の大きい花の色合いや葉の形で区別することは難しいのですが、「上下花卉の中心部の凹部の角が白く縁どられること」に着目すると、ある程度、目星をつけることができそうです。それでも、これだけの違いでなぜ両者が別種なのかと思いたくなるのですが、大きな相違点は種子にありました。ヤマエンゴサクの種子表面は平滑なのに対し、キンキエンゴサクの種子は「微小な突起に覆われている」のです。分類学上、繁殖に関する器官の差異、つまり種子表面の突起の有無は種を分かつ大きな要素と考えられます。

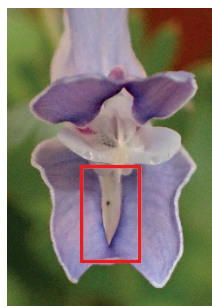


キンキエンゴサク 2024.4.7 あきる野

ここに注目！  
キンキエンゴサクは縁が白色！



左：キンキエンゴサク



右：ヤマエンゴサク

2024年の春、こうした区別点に着目してあきる野市のエンゴサク植物群落地(御手洗望氏発見)を観察し、結実種子まで追跡調査を行ったところ、間違いなくキンキエンゴサクであることを確認することができました。この結果から、東京都内にも本種が分布していることが明らかとなりましたので、都内各所のヤマエンゴサクについて、キンキエンゴサクである可能性がないかどうか、もう一度見直しをする必要が生じているといえます。なお、キンキエンゴサクの確実な同定には種子観察が不可欠ですが、エンゴサク類

は果実の成熟とともに植物体が枯れてしまうことが多いので、未熟なうちに果実を採取して経過をみるなど、種子表面を確認する工夫が必要です。ヤマエンゴサクは多摩西部の山地を中心にかなり広範囲に分布しており、しかも開花期間の比較的短い植物なので、それらのなかにキンキエンゴサクがあるかどうかの確認には、多くの植物愛好者の協力が必要です。(内野 秀重)

表面に突起がある  
キンキエンゴサクの種子

## 引用文献

福原達人 2016. ケシ科. 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司(編), 改訂新版日本の野生植物 2:104, 平凡社. 本多郁夫 2022. 石川県におけるキンキエンゴサクとヤマエンゴサク: 同定のポイント. 石川県立自然史資料館研究報告, 第10号, p.1-8.

## 文献から探る東京の植物 ④『東京西郊野外植物の観察』

著者の牧野晩成(1912-1997)は、長く理科教育の現場に携わるとともに、檜山庫三氏とともに野外植物研究会を牽引し、その機関紙「野草」において、一貫して野外における植物知識の普及に尽力された人である。図鑑執筆も数多く手掛け、小学館の自然観察と生態シリーズなど、ロングセラーとなった図鑑も多い。そんな牧野が、「野外植物と五十年」という著作に続き、氏の野外植物への視点や武蔵野の植物の記録などについて記したのがこの『東京西郊野外植物の観察』(出版科学総合研究所 1986)だ。

植物愛好者からすると“東京西郊”がどのあたりを指すのか気になるところだが、第Ⅱ章に「武蔵野植生の変遷の概略」が綴られ、その第3項に、「昭和二十年代の西三鷹の野生植物」という興味深い記事があった。昭和21年に三鷹市の大沢地区の小学校に赴任した氏が、当時、国際基督教大学(ICU)構内にあった野川の水源とその周辺を数年かけて調査したフロラに関する記述で、「三鷹付近の植物雑記1～6(昭和22年4～12月)」として野外植物研究会会報「野草」に連載されたものをまとめたものである。



『東京西郊野外植物の観察』 表紙

400種あまりの植物リストに加え、特筆すべき植物としてヤマボウシ、クロツバラ、ヤマトラノオ、キセワタ、カセンソウ、キクアザミ、ハバヤマボクチ、アズマイチゲ、ヌマガヤ、ヒメコヌカグサ、ミズニラなどが挙げられている。現在の武蔵野地域では目にすることはできない植物が多いが、当時としても非常に珍しい野草が見られる場所であったことから、何らかの保護を考える必要性にかられて記録を取ったと記されている。ここに述べられた大沢地区の核心部分とは、現在の都立野川公園の自然観察園にあたることは疑う余地がない。



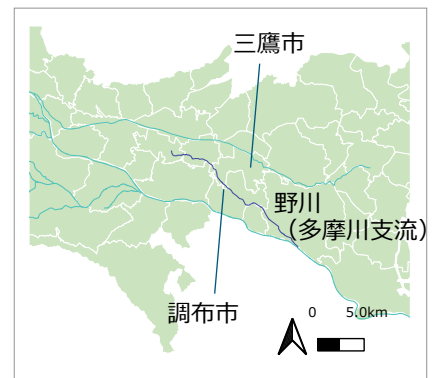
クロツバラ 2025.5.2  
檜原村産植栽



カセンソウ 2009.6.20  
八王子市南大沢



ヒメコヌカグサ 1996.5.21  
千葉県光町



三鷹市、調布市及び野川位置

これらの貴重な植物の片鱗が今も見られるのかどうかは残念ながら把握できていない。当時大学敷地の牧場であった周辺地域は、その後ゴルフ場となり、最終的に東京都が買い戻して野川公園となってオープンスペースとなったが、公園整備、野川の河川改修とこれを横切る都道の整備などで環境は一変してしまったとも氏は書いている。しかし、それだけに、この西三鷹の野生植物に関する記述とフロラリストは非常に貴重な存在意義を放っていると言える。崖線、そして武蔵野地域における緑の基層的なデータであり、このエリアの植物多様性を将来にわたって保全していくうえでの大きな指針となるからである。(内野 秀重)

## 活動報告

### ◇ 教育普及活動報告 (2025年10月末～2026年3月)

#### ○ ハーバリウムスタディ

##### 第16回 10/26・11/9「植物標本をもっとつくろう！ 標本作成講座」

講師：加藤英寿(都立大)

場所：神代植物公園植物多様性センター・牧野標本館 参加者：14名・12名

自ら採集した植物を標本にまで仕上げる、植物多様性センターとの定例コラボ企画。採集、プレス・乾燥、ラベル作成などの一連の流れを体験しました。標本庫の見学・解説もあり、植物標本をつくる楽しさや、未来へ残すことの意義も学びました。



標本庫での解説 2025.11.9  
牧野標本館別館

##### 第17回 1/12「アオギヌゴケ科の分類と同定」

講師：神田啓史氏(国立極地研究所名誉教授)・木口博史氏・古木達郎氏

世話人：木藤俊太郎氏

場所：牧野標本館 参加者：19名

同定の難しいアオギヌゴケ科が「わかるようになる」ことを目指した専門家を招いての学習会を開催。アオギヌゴケ科の概要や近縁種の識別についての解説に続き、実物標本集(エキシカータ)を教材に、顕微鏡を用いての観察を行いました。



アオギヌゴケ科の勉強会風景  
2026.1.12 牧野標本館

##### 第14回 3/17「植物標本作成講座@八丈島」

(2025年10月の八丈島の台風災害による順延実施)

講師：加藤英寿(都立大)

場所：八丈島底土港船客待合所 参加者：10名

雨風が強かったため、午前中に講師が採集した標本を見せながら、植物の採集の仕方やプレス乾燥・ラベルの書き方などを説明。新規にBiomeSurvey 調査に加わる方々には使い方の体験もしてもらいました。



シマテンナンショウ 2026.3.17 八丈島

##### 第18回 3/26「まちだ大戸、境川源流域春植物調査会」

(荒天により中止)

##### 第19回 3/28「～植物標本講座・BiomeSurvey 記録操作～」

講師：加藤英寿(都立大)

場所：牧野標本館 参加者：12名

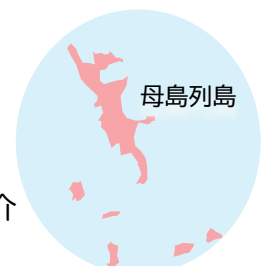
自然保護団体「林を作るコミュニティ」のメンバーへのレクチャーを実施。標本庫の見学と標本作製実習に加え、メンバー各自のスマートフォンへのBiomeSurvey 登録を行いました。

#### ○ その他の教育普及活動

・「玉川上水の野草のお話」(1/11)主催：玉川上水花マップネットワーク

場所：小平市福社会館小ホール 玉川上水緑道でのBiomeSurvey 植物調査について紹介

・母島レンジャーへのBiomeSurvey 説明会(2/23) 場所：小笠原支庁母島出張所



◇ **主な専門員植物相調査記録** ( )内は日付・協力団体●**本土部・区部**

- ・豊島区雑司ヶ谷・文京区目白台(12/11)コゴメスゲ、タイワンハチジョウナ等
- ・世田谷区烏山地区(2/14)イグサ、ガマ等
- ・世田谷区北烏山(3/28)オオアオスゲ、サンショウ等

モエジマシダ 2025.12.11  
文京区目白台●**本土部・市町村**

- ・日野市東豊田(11/6)キセルアザミ、コオニユリ、ノハナショウブ等
- ・町田市小野路(11/10)ノラアズキ、ハダカホオズキ、リンドウ等
- ・玉川上水緑道立川・小平市分(11/13)ツリガネニンジン、アキグミ、タマアジサイ等
- ・町田市上小山田・八王子市別所(11/17)ネナシカズラ、ナギナタコウジュ等
- ・東大和市湖畔(11/20)マツカサススキ、ウメモドキ、アズマザサ等
- ・東大和市奈良橋(11/24)ネジキ、リンドウ、クチナシグサ等
- ・八王子市西寺方(1/15)エンシュウベニシダ、キヨスミヒメワラビ、カントウカンアオイ等
- ・清瀬市中里(2/27)ヒロハノアマナ、ヒナワチガイソウ、ヒメザゼンソウ等
- ・町田市相原大戸地区(3/15)オランダフウロ、ヨツシバヤマネコノメ、コダイコンソウ等
- ・日野市本町・立川市柴崎町多摩川(3/21)マツモ、オオフサモ、ホザキノフサモ等
- ・町田市小山ヶ丘(3/22)カタクリ、ヒトリシズカ、シロバナハンショウヅル等
- ・八王子市横川(3/24 東新緑地株式会社)ヒメニラ、ゴマギ、アサダ等
- ・瑞穂町箱根ヶ崎・駒形富士山(3/29)ツクバネガシ、カタクリ等

リンドウ 2025.11.10  
町田市小野路●**島しょ部**

- ・伊豆諸島 三宅島(11/12~14) 網羅的な植物採集・調査
- ・小笠原諸島 父島・母島(2/20~3/4) 網羅的な植物採集・調査
- ・伊豆諸島 八丈島(3/16~18) 網羅的な植物採集・調査

アキグミ 2025.11.20  
小平市学園西町◇ **その他の活動**

- 植物多様性保全に関する情報連絡会に参加  
神代植物公園植物多様性センター主催(1/24 本土部・2/15 島しょ部)
- 在野の植物研究者、故畔上能力氏の資料整理(1/27・1/30・2/9)  
東京都のデジタルミュージアム事業への協力として、畔上氏が撮影した東京  
に關係する植物・景観等写真のデータ化へのアドバイスと優先的にデータ化  
すべき写真資料約 2500 点を選定

ムニンジャシャンボ  
2026.2.21 小笠原・父島■ **編集後記**

皆さんの植物の発見情報をお待ちしております！

✉ 発行元・お問い合わせ先 ☎



★東京都立大学 牧野標本館  
東京いきもの台帳 植物目録作成事務局  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1  
Email : tokyoflora-ml@ml.tmu.ac.jp  
加藤、内野、市川、北野

★東京都環境局 自然環境部計画課  
生物多様性戦略推進担当  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1  
都庁第二本庁舎 19 階 TEL : 03-5388-3548  
内山、増澤、小林、小泉、中村、深町、正田、古橋